

Ⅲ 「事業部」の実践研究

1 「事業部」の研究

- (1) 事業の研究方針及び研究内容
- (2) 事業の計画

2 「研修講座」の概要

- (1) 研修講座
- (2) 2年次への展望

「事業部」の所員

所員 中野敦人 (水元小学校)

所員 榎林哲也 (八丁平小学校) ～ 副部長

所員 中山由華里 (翔陽中学校) ～ 部長

所員 田澤壽樹 (港北中学校)

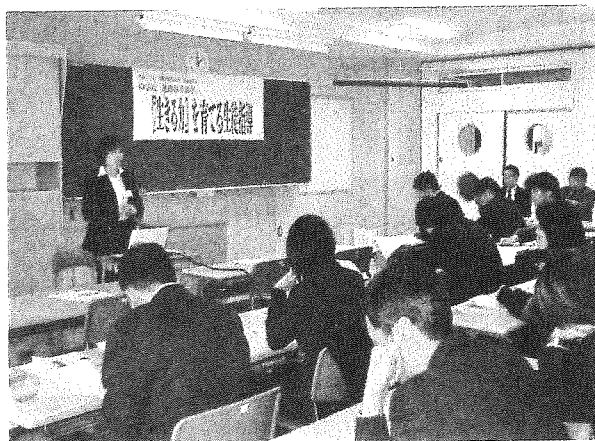
Ⅲ 「事業部」の実践研究

1 「事業部」の研究

(1) 事業の研究方針および研究内容

今年度策定された、「室蘭市学力向上基本計画」に位置付けられている＜重点施策Ⅲ＞の事業⑧「教育研究所研修の充実」、事業⑨「教育研究所講座の充実」に基づき、研修体制の確立と充実を目指す。

事業⑧では、初任者研修や10年経験者研等の研修講座を充実させること、事業⑨では、道教委や道研の講師、教科指導や生徒指導等に熟練した経験豊かな教員を講師に迎え、「学ぶ力」「学ぶ意欲」「学ぶ環境」「学ぶ関係」を伸長するための研修を充実することを目的としている。それに伴い、事業部では「指導力の向上」を図る教職員のニーズに対応した各種研修講座の充実を実現するため、以下の2点を研究内容の視点と定めた。

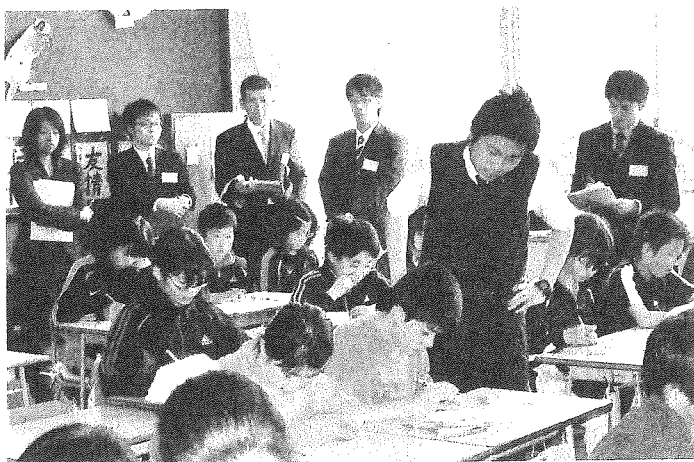


【視点 1】 教員が求める研修機会に関わる把握

前年度までに実施された研究講座に関わるアンケート等をもとに、どのような研修講座が必要であるかを把握し、初任者や経験者などの教職経験に応じた研修講座の内容・形態・時期などについての計画推進に努める。

【視点 2】 「指導力の向上」に関わる研修講座の企画と運営

室蘭市内にある各教育機関や社会科・総合的な学習の時間等で扱う可能性のある地元の企業や公共機関に協力をいただき、教材としての内容をより深めるための「地域振興



型研修講座」、専門的な知識や技能を持つ講師を迎えた教科経営に役立つ実践的な講座及び経験豊かな諸先輩に学ぶ学級経営等の講座などスキルアップを目指した「実践・実技講座」を設定し、指導力の向上を図る。

また、より多くの教職員が参加しやすいよう初任者や経験者の研修等に関わる2講座は課業日とし、地域振興型やスキルアップに関わるの実践実技講座は夏季休業中に3講座、冬季休業中に3講座を開設する。

(2) 事業の計画

① 1年次の事業計画

1 学 期	2 学 期	3 学 期
○教員のニーズ把握 (前年度資料参照) ○研修講座の企画・運営	○研修講座の運営	○研修成果の整理 ○初年度事業のまとめ ○2年次に向けた教員の ニーズ把握と事業の見直し

【地域振興型研修】	【スキルアップ（実践実技講座）】	【まとめ】
室蘭市内の各教育機関を活用し、室蘭市の教育環境を広く理解する。	日頃の実践からの課題解決に向けた手立てや専門的な内容の研修により、指導力の向上を図る。	各研修を通して、1年次成果の整理と、次年度に向けた事業の見直し。

② 研修講座の年間計画

回	期 日	講 座 名	対 象	備 考
1	6月下旬	「基礎講座」 ・「室蘭の教育」の概要 ・不登校児童生徒への支援の実際	・新採用 ・期限付任用教員	教育研究所
2	7月下旬	「地場産業・環境講座」 ・室蘭における環境教育の進め方 ・工場見学	・小学校教職員 ・中学校教職員	新日本製鐵(株)
3	8月中旬	「教職員研修講座」 ・教科経営～音楽科	・小学校教職員	旭ヶ丘小学校
4	8月中旬	「教職員研修講座」 ・学級経営～生徒指導	・小・中学校教職員 ・特別支援教育担当者	蘭 東中学校
5	10月中旬	「教職員研修講座」 ・教育課程の編成と改善 ・学習指導の実施と評価	・小学校教職員 ・中学校教職員	室蘭市役所
6	12月下旬	「教職員研修講座」 ・学級活動～進路指導	・中学校教職員	翔 陽中学校
7	1月中旬	「パソコン実技講座」 ・プレゼンテーションソフトの 基本操作	・小学校教職員 ・中学校教職員	室蘭工業大学
8	1月中旬	「教職員研修講座」 ・教科経営～体育科	・小学校教職員	海 陽小学校

2 「研修講座」の概要

(1) 研修講座

① 研修講座の実施内容一覧

回	講座	期 日 会 場	ね ら い 講 師 等	講 座 内 容
1	基礎講座	6月14日 (火) 教育研究所	「室蘭の教育」の重点を理解するとともに、不登校児童生徒への支援の実態を学ぶ。 ※説明・解説 高橋 泰明 指導主事(市教委) ※授業者 田邊 和也 先生(知利別小) 巡回指導員 安宅 若子 先生(旭ヶ丘小) ※講話 高橋 祥子 氏(訪問アドバイザー)	○「室蘭の教育」の重点について ○巡回指導教員とのチームティーチングの実際 ○生徒指導の課題と解決方策 ○不登校生徒への支援の実際
2	環境学習講座	7月26日 (火) 新日本製鐵㈱ 室蘭製鐵所	地域環境に配慮した製鉄技術の進歩を理解するとともに、ものづくりの実際を学ぶ。 ※説明・解説 新日本製鐵㈱室蘭製鐵所 総 務 G マネジャー 越野 信昭 氏 安全環境 G マネジャー 西畑 常夫 氏	○室蘭における「製鉄の歴史」について ○「環境保全への取組」について ○ビデオによる製鐵所の概要 ○工場見学
3	教職員研修講座	7月27日 (水) 旭ヶ丘 小学校	児童一人一人に応じた器楽の効果的な指導と授業の工夫にとともに、打楽器や旋律楽器の指導技術の講習を通して「器楽の指導と授業の工夫」について学び、今後の学習指導に役立てる。 ※講師 松山 潤 先生(八丁平小)	○鍵盤ハーモニカ・リコーダーの指導技術 ○打楽器や旋律楽器の指導技術
4	教職員研修講座	8月16日 (火) 蘭 東 中学校	信頼を深める生徒指導の在り方について、多様な場面における生徒指導の実践に関わる意見交流や専門的な講話を通して、指導力向上を目指す。 ※パネリスト 毛利 憲二 先生(港北中) 咲間 美香 先生(港南中) 田中 健之 先生(向陽中) ※講師 鎌田 典子 教頭先生 (室蘭養護学校)	○パネルディスカッション 「多様な生徒に必要な、教師の心がけ・働きかけ」 ○講演 「発達障害の特性をもつ生徒への接し方・心がまえ」 ○質疑応答

回	講座	期 日 会 場	ね ら い 講 師 等	講 座 内 容
5	教職員研修講座	11月2日 (水) 市役所	新しい教育課程について理解を深めるとともに、学習指導の改善方策について学ぶ。 ※講師1 久葉 忠男 先生(研究所副所長) ※発表者 加藤智佳子 先生(本輪西小) 佐藤 洋子 先生(本室蘭中) ※講師2 入江 祐史 校長先生(旭ヶ丘小) ※発表者 平野 佳子 先生(高平小) 田端 歩 先生(知利別小) 内浦 正晴 先生(翔陽中) 縣 宏光 先生(北辰中)	○講話1「新しい教育」に求められるもの ○実践発表1「確かな学力」を高める学校づくり ○講話2「校内研究の活性化」に求められる視点と方策 ○実践発表2「学力の向上を目指した授業づくり(教科経営の実際)」
6	教職員研修講座	12月26日 (月) 翔陽中学校	学級活動において「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んじる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養う」ことを目標とした「進路指導」を担う教員として、「望ましい勤労観・職業観の育成」の理解を深めるとともに、「一人一人のキャリア発達への支援の充実」について学ぶ。 ※説明・解説 高橋 泰明 指導主事(市教委) ※発表者 根子ももこ 先生(北辰中) 柳沼 慶祐 先生(向陽中) ※講師 室蘭公共職業安定所 学卒ジョブサポーター 関口 万威子 氏	○ガイダンス 「系統性のあるキャリア教育の全体計画」 ○実践発表1 「勤労の意義や働く人々の様々思いが分かる教育活動」の工夫と実際 ○実践発表2 「一人一人のキャリア発達への支援の充実」を図る計画と実践 ○講話「これらからの進路指導に求められるキャリア教育の在り方」
7	実技講座	1月11日 (水) 室蘭工業大学	パワーポイントの基本操作を習得するとともに、教材作成やプレゼンテーションの方法について学ぶ。 ※講師 室蘭工業大学 「情報メディア教育センター」 センター長 刀川 眞 教授 ※技術指導 技術専門部 高木 稔 先生 専門職員 佐藤 之紀 先生 技術員 松前 薫 先生	○パワーポイントの基本 ○プレゼンテーションの作成と演習 ○スライドショー・アニメーションの活用 ○「印刷・保存」の仕方

回	講座	期 日 会 場	ね ら い 講 師 等	講 座 内 容
8	教職員研修講座	1月13日 (金) 海陽小学校	器械運動を苦手とする児童に対する有効な指導法を学ぶとともに、基礎的な技のポイントや技を完成させるまでの指導の段階を今一度確認し、指導の向上に役立てることを目的とする。 ※講師 田澤 孝司 先生 (登別市立登別中学校)	○マット運動の指導実技 「知っておきたいマット運動の基礎基本」 ○跳び箱の指導技術 「跳び箱が苦手な児童への指導について」

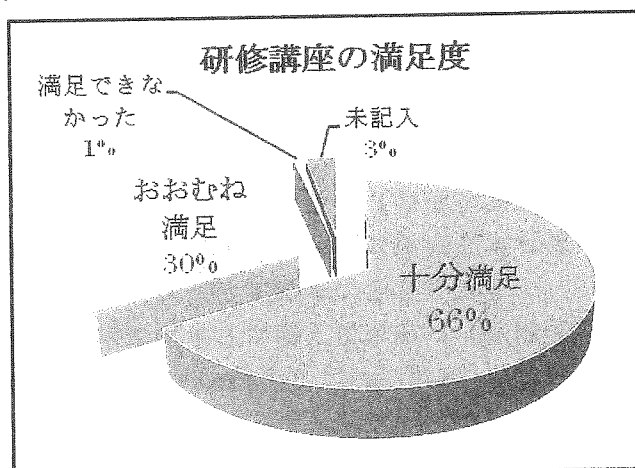
② 成果と課題

ア 【視点 1】「教員が求める研修機会に関わる把握」より

前年度のアンケート等をもとに、教職経験に応じた研修講座の内容・形態・時期などについて計画推進に努める活動では、各種研修講座とも9割以上の参加者が満足する内容を開設することができた。

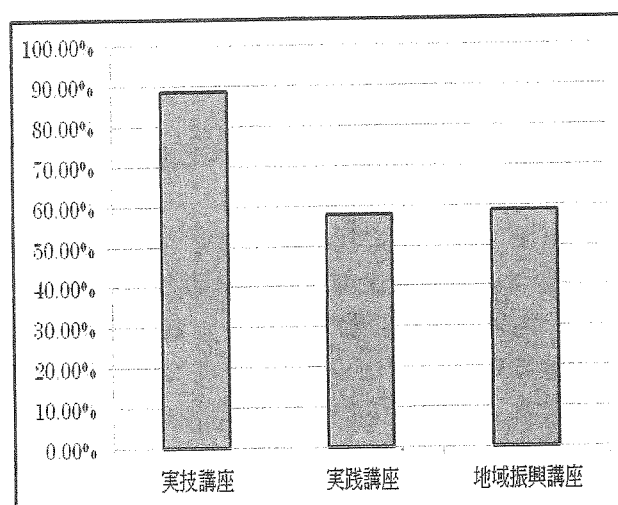
初任者・経験者はもとより、期限付任用教員の参加者にとっても、実践に即した講話を聞くことで指導への自信と意欲につなげることができた。

講師の方々の熱心な講話や工夫ある実践発表によって、教職経験に関わらず参加者が指導力向上に対する意欲を喚起し、研修そのものがこれまでの指導を振り返る良い機会として提供できたものと考えている。



また、実技講座・実践講座・地域振興講座それぞれの満足度を比較した結果、研修後すぐに指導に役立てることのできる実技講座が一番高い満足度となった。次年度は右の結果を参考に、実技講座の内容を充実させ指導の技能向上を第一と考え、今年度以上の参加者を増加できるよう早い段階で講座開設の時期や内容を確定させ、研修講座一覧を各校へ配布し周知徹底させることを課題とする。

開催時期においても、今年度に引き続き休業日・長期休業日それぞれに設定するとともに、校種によって参加しやすい工夫と日程を調整する必要があると考えている。



研修講座の形態としては、参加者と発表者が対面になる通常の形態に加え、パネルディスカッションの実施や視聴覚機器の活用など目先に変化をもたせた形態や、2部会に分かれて実践交流を進めるなど、流動的な形態を取り入れることで参加者の主体性を促すことができた。今後もそういった、参加者側の立場に立った講座内容がより理解しやすい工夫を取り入れていきたいと考える。



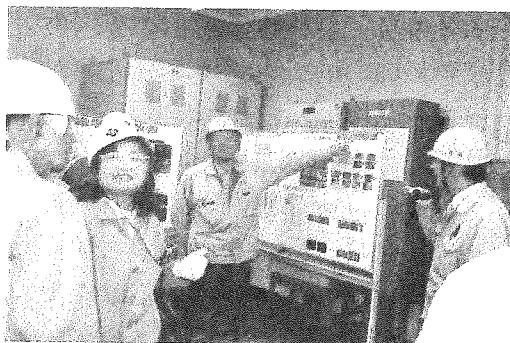
イ 【視点 2】『指導力の向上』に関わる研修講座の企画と運営」より

本市学力向上基本計画の基盤である児童生徒の「確かな学力」を実現させるため、教職員の「指導力の向上」の手立てとし、各種講座を大きく分類し企画・運営を進めてきた。

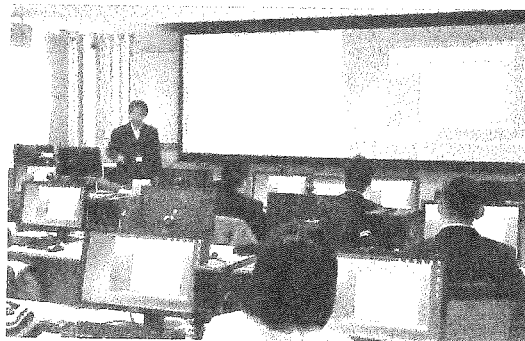
第一に、社会科・総合的な学習の時間等で扱う可能性のある地域の企業や公共機関をはじめとし、室蘭市内各教育機関の活用と教育環境を理解し共有することを目的とした【地域振興型研修】を、第二に教育のスキルアップを目的とし、児童生徒の課題解決に向けた教科に関する技能向上を図るため、専門的な知識や技能を持つ講師による教科経営に役立つ【実技講座】を、第三として日頃の学級経営や生徒指導の課題解決に向け、経験豊かな諸先輩に学ぶ【実践講座】を企画・運営してきた。

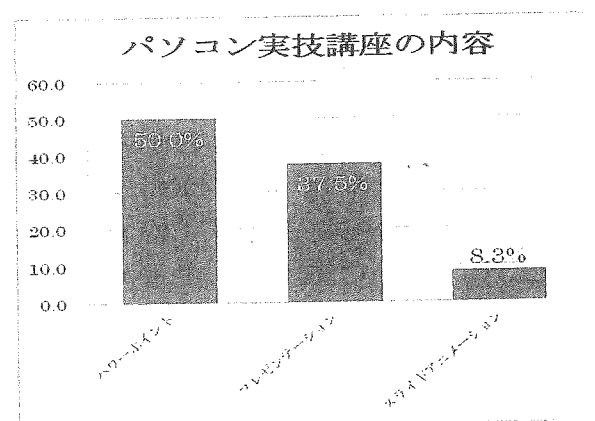
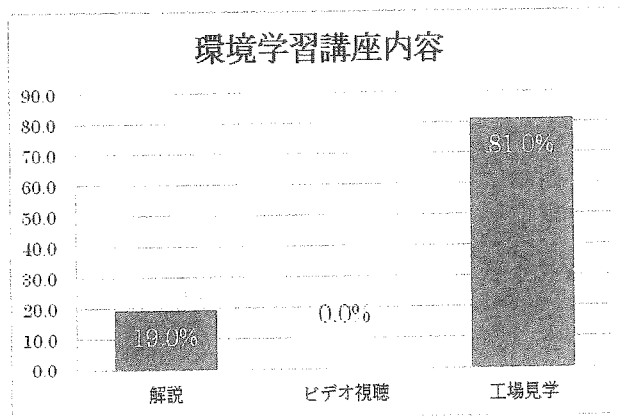
【地域振興型研修】の成果と課題

- 新日本製鐵株式会社「室蘭製鐵所」での講座には、13校22名の参加者があり、そのうち「室蘭製鐵所」へ初めて入構する参加者がほとんどであった。「室蘭における製鐵の歴史」では、室蘭に製鐵所ができた経緯から最盛期の様子、現在の体制に至るまでを知るなど、小学校3年社会の副読本に記載されている以上の内容に触れることができた。「環境保全への取組」では、小学校5年社会で扱う内容にも合致しているなど地域教材としての価値を再認識することができた。「工場見学」においては、現在は随分と改善されてはいるが、現場の過酷な環境や、間近で見た転炉のダイナミックな様子を迫りに驚くとともに、日本の「ものづくり」の素晴らしさを目の当たりにすることができ成果としてあげられる。今後も引き続き工場見学等を研修講座として開催する必要があると考えられる。



- 室蘭工業大学では、室蘭市との「包括連携協定」に基づき、情報教育の推進及び情報機器の操作に関わる指導的な役割を担う人材の育成を目的に「はじめてのパワーポイント」と題し、基本操作を習得するとともに、教材作成やプレゼンテーションの方法について学ぶ講座を開設した。室蘭工業大学情報メディア教育センターの充実した学習環境のもと、専門性の高い講師陣による懇切丁寧な指導で、初心者にも理解しやすい内容となった。

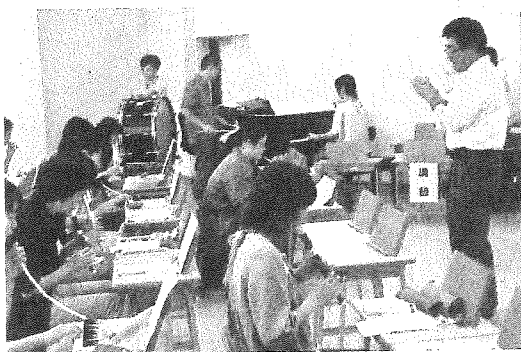




地域振興型研修講座については、来年度も継続して新日本製鐵(株)、室蘭工業大学のご協力のもと講座を開設していきたいと考える。講座の内容においては、関心の高かったものに加え、参加者の理解度に合わせて内容の細分化や、今年度の内容のグレードアップした形で提供し、参加者の増加を期待したい。

【スキルアップ（実践・実技講座）】の成果と課題

＜実技講座＞として、小学校の音楽科と体育科の教科経営講座を開設した。音楽科では、講習１でリコーダーの指導技術を、講習２で打楽器や旋律楽器の指導技術について研修を進めた。



講習１では、信頼関係の大切さについて学んだ。音楽が苦手な教員でも、他の場面で子どもたちと信頼関係を築くことで授業に児童が引き付けられ、充実した音楽の授業をすることができることを話された。

講座２では、資料として用意された「笛星人」の楽譜をもとに演奏し、参加者が生徒となりながら音楽の学習の楽しさを体験することができた。講習の

まとめとして最後には、全員で各パートに分かれて、様々な楽器を用いて合奏をすることができた。音楽に苦手意識がある教員でも、ちょっとした工夫で児童を引き付けられるアドバイスをいただくことで、参加者も授業への意欲が高まったと思われる。参加者のアンケートでは、楽器の扱い方や一人ハモリの裏ワザといった大人も楽しめ、普段の授業ですぐに役立つ指導技術が好評だった。

体育科では、マット運動と跳び箱の指導技術について研修を進めた。器械運動に対応した柔軟運動の在り方に始まり、曲げる・伸ばす・支える等の感覚を育てるための動きづくりとして、ユニークなネーミングと動きで子どもたちの興味関心を引き出す導入方法など実践・実演を交え紹介していただいた。講師の方の専門的知識をふんだんに取り入れた技のコツ・指導のコツ・幫助のコツ・段階に応じた練習パターンなど、子どもたちの課題に対する主体的な活動を喚起するための、要点を凝縮した指導方法を学ぶことができた。

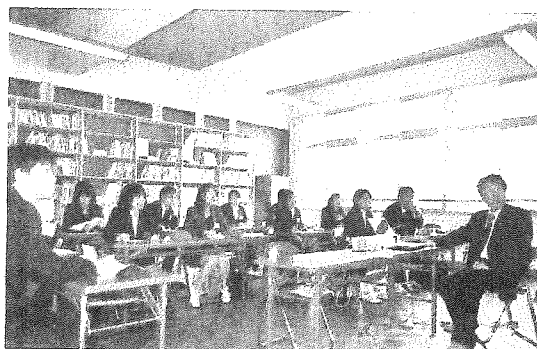
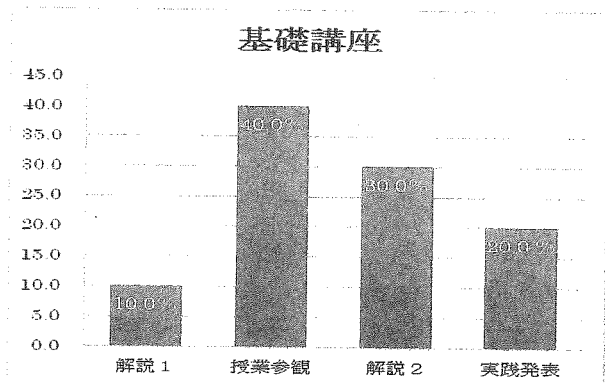
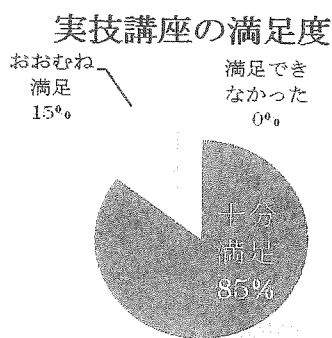


教科経営講座では、講師の方々の専門性の高い知識や豊富な経験から培った指導方法を、理解しやすい言葉や動作を交えて学ぶことができた。参加者が実際に体験することで、指導される側の立場からみた、課題となりやすいポイントを見出すことができた。

今後は、校種の枠を超え小中の発達段階に応じた指導の工夫や、系統立てた内容による既習事項の活用を意識した学習内容の設定を評価方法も取り入れつつ、発展的な研修講座を企画していきたい。

＜実践講座＞として実施した内容は、新採用および期限付き任用教員を対象とした基礎講座を始め、教職員研修講座として生徒指導・教育課程・進路指導の4つの講座を開設した。

【基礎講座】においては、いじめや不登校を中心とした生徒指導上の課題への対応について、学級担任と巡回指導員による小学校6年生の算数科の授業の参観、指導主事による室蘭の教育の課題と重点、訪問アドバイザーによる不登校児童生徒への支援の実際についてそれぞれ学んだ。



上表から授業参観への関心が高く、新採用教員や期限付任用教員にとって授業に関するノウハウを知ることが即実践につながる重要な内容となった。併せて、現在室蘭市が課題としている事項についての解説により市内の現状を知ること、研修後の学級経営や学習指導・生徒指導上の課題やその対応について学ぶことができ、指導力向上に向けた意識付けの一步となった。

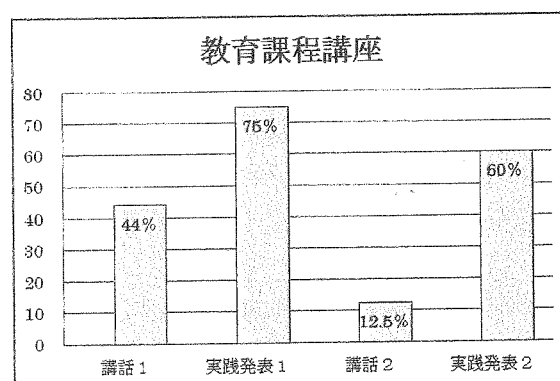
【学習指導における教育課程講座】では、「新しい教育」に求められるものについて・「指導力の向上」を図る授業研究についてそれぞれ講話がなされた。

また「確かな学力」を高める学校づくりをテーマに、本輪西小学校と本室蘭中学校の『学力改善向上プラン』に基づく特色ある取組と成果についての実践が発表され、小学校部会・中学校部会それぞれの国語科と算数・数学科における「学力の向上」を目指した授業づくりについての実践も発表された。

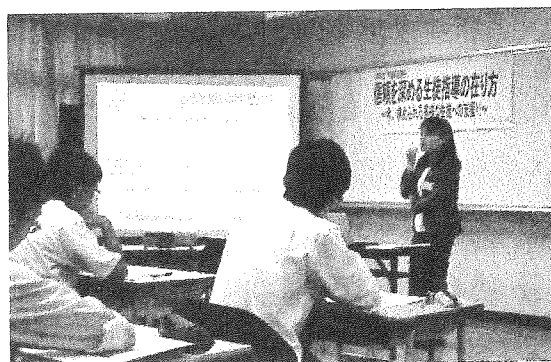


分類された講話のポイントとして、各学校に求められるカリキュラムマネジメントの方向性や校内研修ならびに授業研究の重要性について提言された。

教育課程講座においては、2つの講話に加え、校内の取組に関わる実践発表1と教科に関わる実践発表2を企画したが、右表からもわかるとおり、実践発表への関心がそれぞれ高いことがわかる。実践発表から参加者がそれぞれ情報を得る場として講座への参加意欲が高まることから、各講座内で実践発表を設定することは必要不可欠である。



【学級経営中心の生徒指導における講座】では、「信頼を深める生徒指導の在り方」として「多様な生徒に必要な、教師の心がけ・働きかけ」をテーマにパネルディスカッションによる実践発表を実施した。また「発達障害の特性をもつ生徒への接し方・心がまえ」について室蘭養護学校の教頭より講話をいただき、現在最大の課題となっている発達上の特異な性質を持つ生徒への対応について学ぶことができた。

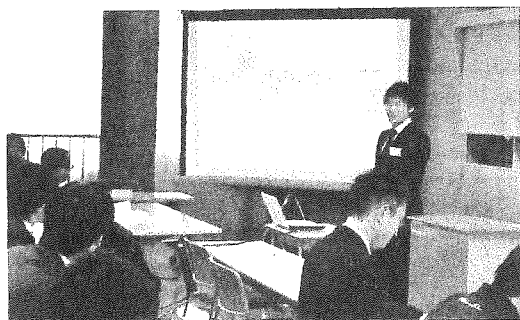


【進路指導講座】では、キャリア教育の意義と系統性のある全体教育のガイダンスを始め、

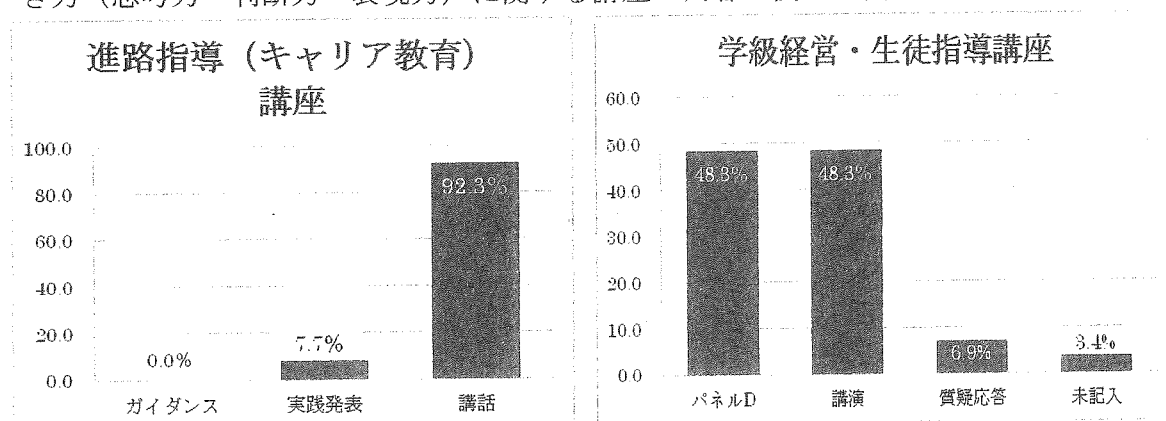
中学校第1学年を対象とした、「勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる教育活動の工夫と実際」について、同じく中学校の第2学年を対象とした、「一人一人のキャリア発達への支援の充実を図る計画と実践」について、北辰中学校・向陽中学校の1年間の取組を発表していただいた。

また、室蘭公共職業安定所の学卒ジョブサポーターによる「これからの進路指導に求められるキャリア

教育の在り方」についての講話で、室蘭市内における高卒就職者斡旋状況や企業から求められる人材の特徴・特質について現状を知ることができた。



両講座のアンケート結果から見られるのは、普段聞くことの無い実体験や専門的指導の立場からみた生徒理解のポイントや対応の手立て、市内の現状や生徒一人一人が身に付けるべき力（思考力・判断力・表現力）に関する講座の内容に関心が高かった。



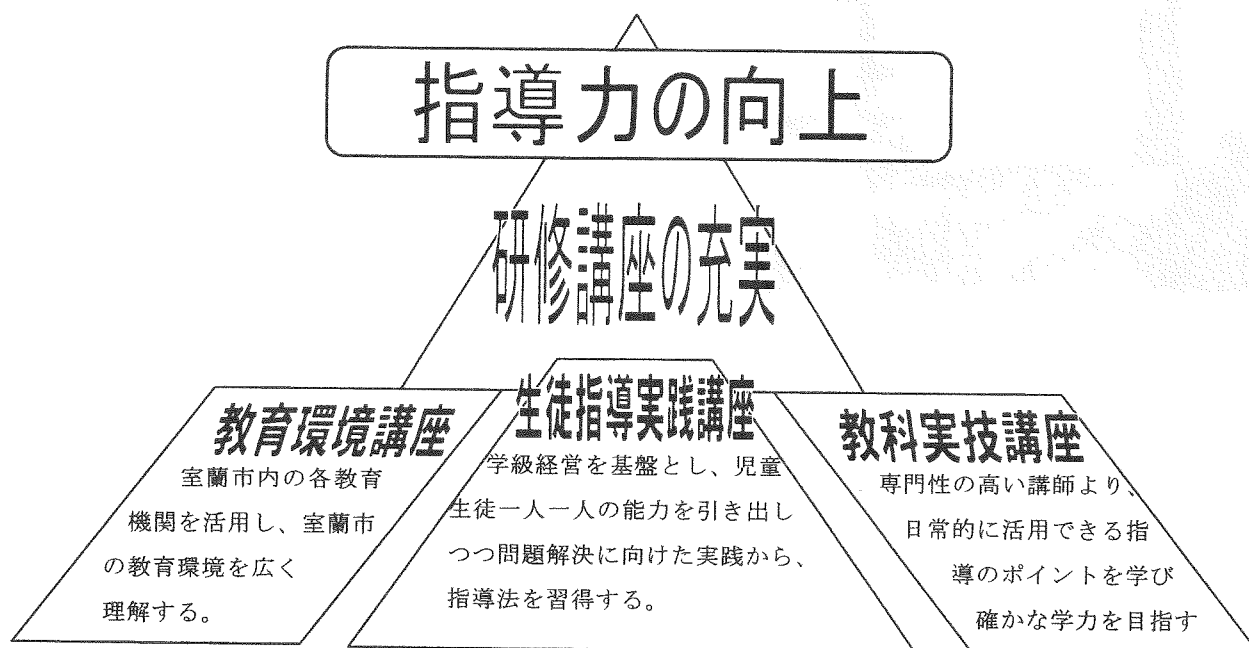
実情を知ること、日頃の学級経営を振り返り、問題解決に向けた改善すべき点を見出し、安易に指導法の習得に終わらず、生徒への接し方・コミュニケーションの取り方・集団と個別における指導法の違い等が明確となり、今後の教師の指導力に求められる課題も露呈したと思われる。また、スキルアップを目的とした研修講座全体の大きな成果として上げられるのは、指導力の向上にとって必要な「指導を振り返り、改善点を見出す機会」を提供できたことといえる。

今年度の事業部の取組において、研修講座の参加前と参加後では教育活動そのものに対する考え方や意識の向上が参加者のアンケートより伺えた。また参加者からは、もう少し追求した内容に関心や意欲が増し、実践発表や講話に関わる時間を延長してほしいといった要望が各講座で出てきたことも、大きな成果といえるだろう。

2年次へ向けた課題としては、こういった機会をより多くの教職員に経験してもらうためにも、参加者の増加を目指した企画内容の工夫に加え、各校への講座の周知徹底といえる。

(2) 2年次への展望

今年度事業部では、講座の開設に向けて【地域振興型研修】と【スキルアップ（実践実技講座）】の大きく2つに分類し計画を進めてきた。それぞれの利点を生かし、2年次は室蘭市内の教職員がよりニーズに応じた講座を選びやすくするため、また参加しやすくするために、さらなる具体的な分類が必要とされる。また、今年度に引き続き『指導力の向上』を目指した講座を企画運営するにあたり、下記の講座内容を展望としてあげたい。



指導力の向上の土台や近道となるのはやはり、『研修講座の充実』と考える。そこで、事業部としては、【学習の環境を整える】【指導技術の方策】【教科指導力の向上】をそれぞれ、教育環境講座・生徒指導実践講座・教科実技講座とし設定していきたい。

IV 「相談部」の実践研究

1 「相談部」の研究

(1) 研究仮説

(2) 研究内容3「家庭教育の学習・生活習慣の醸成に 向けての工夫」

(3) 事業の計画

2 「学習・生活習慣の醸成」に関わる手立ての概要

(1) 児童生徒の学習・生活習慣に関わる実態の把握と分析

※ 資 料 1 「学習・生活習慣の傾向（小学校）」
「学習・生活習慣の傾向（中学校）」

(2) リーフレット「家庭教育のすすめ」

※ 資 料 2 「家庭教育のすすめ」・・・小学校（低学年・高学年）
「家庭教育のすすめ」・・・中学校

3 成果と課題

(1) 成 果

(2) 課 題

「相談部」の所員

所員 加藤 智佳子 (本輪西 小学校) ～ 部長

所員 糸川 葉月 (港南 中学校) ～ 副部長

IV 「相談部」の実践研究

1 「相談部」の研究

(1) 研究仮説

(仮説 3)

家庭教育において、学習・生活習慣の改善点や具体的な方法を家庭に啓発することにより、児童生徒の学習・生活習慣の醸成が図られるであろう。

(2) 研究内容3「家庭教育の学習・生活習慣の醸成に向けての工夫」

(研究内容 3-1)

児童生徒の学習習慣に関わる調査と分析

※ 全国学力・学習状況調査の4年間及び標準学力調査の3年間の活用

(研究内容 3-2)

児童生徒の「学習・生活習慣の醸成」に向けて、家庭に奨励すべき内容の選定

※ 家庭教育に関わるリーフレットの作成

(3) 事業計画

1 学期	2 学期	3 学期
学力調査等の結果に基づく、児童生徒の学習・生活習慣に関わる実態の把握と分析	「学習・生活習慣の醸成」に関わる手立てとしての家庭向けリーフレットの作成	○ リーフレット配布と効果的な活用方法の検討 ○ 2年次に向けての課題の整理

2 「学習・生活習慣の醸成」に関わる手立ての概要

(1) 児童生徒の学習・生活習慣に関わる実態の把握と分析

児童生徒の実態を客観的に把握する資料として、平成19年度から22年度の「全国学力・学習状況調査」の質問紙と平成21年度から23年度の「標準学力調査」の生活行動・学習活動調査の回答の集計結果を全国と比較し、全国との差が大きい項目をピックアップした。中でも特徴的な12の項目をグラフ化することで室蘭市の児童生徒の学習・生活習慣の傾向を視覚的に捉えられるようにした。(※資料 1)

小・中学生ともに、「テレビゲームを2時間以上している」「テレビやビデオ・DVDの視聴が2時間以上である」と回答した児童生徒の割合が全国より多いこと、「家庭での学習時間が1時間以上」「家で宿題をしている」と回答した児童生徒の割合が全国より少ないことから、学習習慣の課題が明らかになった。また、中学校で「学校の規則を守っている」と回答した生徒の割合が低く小学校でも減少傾向にあることから、規範意識の低下が懸念されることや、中学校で「携帯電話を持っている」と回答した生徒の割合が高いことから、ネットトラブルに巻き込まれる危険性も無視できない状

況である。

小学校では、他にも「朝食をきちんと食べている」「朝食を家の人と一緒に食べている」「読書をしている」「進んで勉強している」「自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童の割合が低いことから、基本的生活習慣や生活リズムの確立を促していくことも重要な課題である。

(2) リーフレット「家庭教育のすすめ」

室蘭市の児童生徒の実態を踏まえて学習・生活習慣の改善を図るために、小学校の低学年（１・２・３年生）と高学年（４・５・６年生）及び中学生それぞれの家庭向けのリーフレットを作成した。（※資料 ２）

リーフレットの作成にあたっては、家庭教育の必要性を訴えるとともに、生活習慣や学習習慣の改善ポイントを保護者にわかりやすい言葉で表現するように配慮した。

今後は、その内容や表現を見直し、リーフレットと併用できる「生活チェックリスト」の作成など、さらに効果的な活用方法を考えたい。

3 成果と課題

(1) 成 果

- ・ 「全国学力・学習状況調査」の質問紙と「標準学力調査」の生活行動・学習活動調査の回答の集計結果の分析から、室蘭市の児童生徒の学習・生活習慣の傾向を明らかにすることができた。
- ・ 児童生徒の学習・生活習慣の実態をもとに、家庭において学習・生活習慣上の改善すべき内容を精選し、改善のポイントを記載したリーフレット「家庭教育のすすめ」を作成することができた。

(2) 課 題

- ・ リーフレット「家庭教育のすすめ」の内容や表現が家庭に向けた発信として適切であるか見直していきながら、リーフレットの改善項目に対応した「生活チェック・リスト」を作成するなど、家庭での効果的な活用の工夫を図る必要がある。
- ・ 各学校を通してリーフレットを配布するだけでなく、リーフレット「家庭教育のすすめ」を用いた学級活動の時間の指導など学校の実態に合わせた活用方法を提案していくとともに、学校独自の取組を交流することが望まれる。

